

事例紹介

プログラム助成

兵庫県立東灘高等学校

神戸層群の継続的な調査と、地域連携や地域貢献

神戸層群は海生・淡水貝化石や陸生植物の葉や材化石を産出する世界的にも貴重な地層。しかし、保護や活用がほとんどされておらず研究も進んでいない。そこで、市民にももっと興味を持って欲しいと考え、高校生が多くの専門家の協力を得て、今年度は他校との合同調査や小学校へのイベント出展、他県での調査、兵庫県高等学校総合文化祭などでのポスターや口頭発表を実施。多くの市民に触れて、知ってもらう機会ができた。香川県での調査からは神戸層群との共通点も得ることができ、今後も探究をすすめていきたい。



個別助成

美瑛町立美沢小学校

放課後や休み時間を活用した自然観察・体験活動の充実

北海道の中央、富良野に近い美瑛町には豊かな自然が広がる。5haの校地には見本林や池もある。この恵まれた環境を理科や生活科の学習に活用するために「見触笑(みさわ)でGO!」を実施。内容は、自然や生き物を観察し写真にとる「見」。自然を生かした体験をして記録する「触」。体験や知識を増やし興味や関心を高める「笑」。自然に関するクイズや体験ミッションにゲーム感覚で取り組むことで、学習を充実させるだけでなく、身の回りの自然に目を向け、この美沢で育ったことに誇りを持つ子どもたちが育まれると考えている。



個別助成

追手門学院大手前中学校

新学習指導要領を踏まえた最先端のロボット教育の推進

全世界88か国32,000ものチームが参加する世界最大規模のロボットコンテスト FLL。各国からの予選を勝ち上がった80チームが競う世界大会に日本代表として参加したロボットサイエンス部の中高生9名が2018年に総合優勝を果たした。ロボット作りに興味のある小学生をコンテストに参加した中学生が指導し、共にWRO(FLLとは別の世界規模のロボットコンテスト)に挑戦。指導を受ける小学生のみならず、教える側の中生にも大きな学びの機会となった。単にものづくり力の向上だけでなく、試行錯誤を繰り返しながら考える力や創造力の育成にもつながり、ロボットプログラミング教育の啓発にも大きな効果があった。



都城工業高等専門学校

中規模都市における「小・中学校向け理科教育支援」～高専サイエンス支援ネットを利用した学生を主体とした活動を中心として～

青少年のための科学イベントがほとんど開催されない中規模都市圏の子どもたちのために、九州沖縄地区の9高専が連携し、科学イベントを実施。各高専の学生が中心となって企画・推進・運営することで、将来の科学者や指導者を育成することも目的として行った。イベントでは責任者の学生が普段交流のない他の高専生に内容を教授することで教える側はより深く内容を理解でき、また教わった方も新たな知見を得ることができた。「科学の面白さ」と「教えることの面白さ」も共有することができた。



神奈川立鎌倉高等学校

赤目砂鉄を原料として古代製鉄技術によって生成される錒(ケラ)の研究

古代製鉄法である「たたら製鉄」は、全国の砂鉄の産地で小規模に行われ、鎌倉でも行われていた。砂鉄は産出される地域でその種類が異なり、鎌倉の砂鉄が赤目砂鉄である。この赤目砂鉄を使用した「たたら製鉄」の研究から、砂鉄や錒に含まれる微量元素の存在を確認。また歴史的建造物に使用されている鉄釘等の分析により、原料である砂鉄の種類や産地が推定できる可能性を見出した。現在は消滅した製鉄法を生徒自らが再現し、地元ゆかりの「鎌倉たたら製鉄」を着想とした研究や成果発表を行っている。生徒の科学的・論理的思考の育成に加え、郷土の歴史や地域の文化的な教育にもつながる活動となった。



意欲的な小学校の先生方を支援するプログラム助成

四国中央市理科同好会

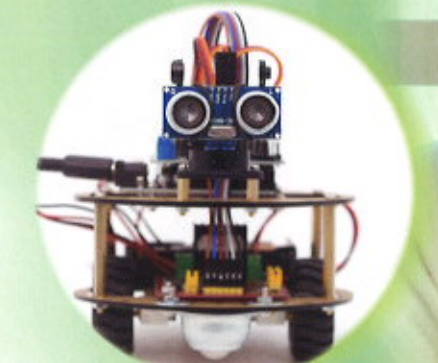
教員の指導力向上と理科教育の振興

愛媛県教育委員会では県内の小・中・高校の教員の中から特に「児童生徒たちに楽しく分かりやすい授業をしている模範となる先生」を「えひめ授業の鉄人」として科目ごとに認定を行っている。その最初の理科の鉄人が中心となり、理科教育に関心のある市内の小・中学校の教員の中から集まった有志が活動を行っている。こどもたちの理科力向上に直結する授業が出来るよう「現場で役に立つ研修会」を年に5～6回実施。また、幼稚園から高校、地域イベントへの出張公開授業を多数行い、理科好きの児童・生徒を育てるだけでなく、模範的な授業を見せる事で参加教員のスキルアップにつながる活動となった。



未来を創るチカラ!

科学の学びを通じて、子どもたちの興味と体験の橋渡しをする助成金のご紹介



科学教育振興助成

文部科学省後援

小学・
中学・高校
教育機関が
対象です。



公益財団法人
中谷医工計測技術振興財団

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 国際健康開発センタービル(IHDビル)5階
本部 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー8階



公益財団法人
中谷医工計測技術振興財団

〔令和2年度助成の募集期間〕

令和元年10月15日～12月10日

科学教育を通じてつくる、 発展するチカラ。

中谷医工計測技術振興財団は、将来を担う子どもたちの論理的思考力や創造性を育み成長させることが、科学技術の発展はもとより我が国の発展に寄与するものと考え、小学校、中学校、高等学校における科学教育振興を目的とした取り組みに対して助成する事業を平成26年度より実施しています。

さらに、理科好きの小学生を増やすため、意欲的な小学校の先生方を支援する取り組みも行っています。

この助成が、科学教育発展にご尽力いただいている皆様の一助になればと考えています。

中谷医工計測技術振興財団とは

中谷財団は、シスメックス株式会社の創業者・中谷太郎が昭和59年に「中谷電子計測技術振興財団」として設立しました。その意思を継いだ子息の中谷正の遺贈を受け、平成24年に大きな事業が行える財団へと生まれ変わりました。同年には、公益財団法人に移行し現在の財団名となりました。

当財団は、医工計測技術の広範な発展を推進し、社会および国民生活の質の向上に寄与することを目指しています。医工計測技術分野における先導的技術開発の助成を中核として技術開発に顕著な業績をあげた研究者への表彰や技術交流への助成等の事業を行っています。また、若手人材育成のため、科学教育振興をはじめ大学生の留学サポートや大学院生向け奨学金等の助成事業も行っています。



最新情報については、ホームページをご覧ください。詳しくは

<https://www.nakatani-foundation.jp/>

中谷財団

検索

お問い合わせは、上記HPの「お問い合わせフォーム」よりお願いします

プログラム助成

助成対象

広く科学教育を振興するため、小学校、中学校、高等学校等の複数校の児童、生徒が主体的に共同で行う2年間の活動。

※地域特性を活かした取り組みを重視します。

助成金額

最大100万円×2年間

応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校。

※原則、大学や教育センターからの応募はできません。

※高等専門学校は、1～3年生が対象となります。

※2年間継続して活動いただける組織に限ります。

個別助成

助成対象

小学校、中学校、高等学校等における児童・生徒の科学に対する関心を高めようとする授業やクラブ活動等。

※地域特性を活かした取り組みを重視します。

助成金額

最大30万円×1年間

応募資格

上記の企画と実施に取り組む小学校、中学校、高等学校等。

※高等専門学校は、1～3年生が対象となります。

意欲的な小学校の先生方を支援するプログラム助成

助成対象

子どもたちの理科の力を向上させるための指導法の改善や学習法の開発などに取り組む意欲的な小学校の先生方、または先生方を支援する機関の3年間の活動。

※複数の学校が、研究機関(博物館、科学センター、大学等)や教育センター等と共同で行う活動。

助成金額

最大100万円×3年間

応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校または、機関、コンソーシアムの代表。

※原則、地方自治体からの応募はできません。教育センターからの応募は可能です。

※先生方の自主的な研究会は、組織体として整備され、教育委員会が承認または認知した組織に限ります。

※3年間継続して活動いただける組織に限ります。

※複数の小学校の参画に限ります。

- 本助成対象は、学校、教育機関であり、先生個人を対象としたものではありません。
- 1校から1件の応募をお願いします。
- 一貫校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校等も対象にします。
- 個別助成、プログラム助成は児童・生徒が主体的に行う活動が対象です。

令和2年度助成の
募集期間

令和元年10月15日～12月10日

(助成採否のご連絡は3月上旬に致します)

応募方法

当財団ホームページにて、募集要項を確認の上、ウェブシステムよりお申し込みください。
(募集期間前の入力はありません)
ご応募の前には、必ずHPのQ&Aをご覧ください。

応募の
流れ

ユーザー
登録

Web
入力

応募
完了

過去の 助成数

第6回(令和元年度) 【プログラム】27件、【個別】63件、【小学校の先生支援プログラム】11件
第5回(平成30年度) 【プログラム】27件、【個別】60件、【小学校の先生支援プログラム】8件
第4回(平成29年度) 【プログラム】40件、【個別】56件、【小学校の先生支援プログラム】12件
第3回(平成28年度) 【プログラム】39件、【個別】57件、【小学校の先生支援プログラム】6件